115 号　K.Heuvel「新たな冷戦をもとめるワシントン」

2022 年 08 月 29 日

Globetrotter
16 August 2022

Washington Wants a New Cold War—But That’s a Bad Idea

https://www.scoop.co.nz/stories/HL2208/S00031/washington-wants-a-new-cold-war-but-thats-a-bad-idea.htm

by Katrina vanden Heuvel
(the editorial director and publisher of the Nation)

リード

先週、ナンシー・ペロシ下院議長が台湾を公式訪問した。その後、中国が台湾沖で実弾演習を行い、「武力による統一」を実際に試している。
これらのことから、ワシントンでは中ロとの新冷戦を求める超党派の熱狂が高まっている。

……

慣れ親しんだ冷戦思考

ワシントン・ポスト紙のコラムニスト、ジョシュ・ロギンは、「議会の指導者たちは、米国がヨーロッパとアジアの両方で、米国の敵対勢力に反撃する義務と利益を有していると考えている」と報じた。

冷戦はアメリカの安楽地。我々は直近の冷戦にも勝った。

我々は民主主義の旗印、白い帽子をかぶり、権威主義に対抗する。 そして同時に、我々は世界最大で世界最高の軍隊を持っている。どこの国の誰が反対するだろうか？

しかし、それでも疑問が残る。

ロシアと中国を同時に相手にする、今度の新たな冷戦は、アメリカの安全保障にほんとうに役立つのだろうか。それはバイデン大統領が約束した「中流階級のための外交政策」を推進することになるのだろうか。

多くのアメリカ人は、この国が外国への冒険心を抑え、自分たちの住む街を整えることに集中するよう望んでいるのではないだろうか？

我々には冷戦よりはるかに重大な課題がある

今、私たちの安全保障にとって現実の脅威となっているのは、気候変動が引き起こす異常気象である。それは山火事、洪水、疫病、干ばつによって、すでに多くの人命と何十億ドルもの損害を与えている。

サル痘は、大きな被害をもたらした Covid19 の恐怖を想起させる。

これらの対策のためには、国防総省に金をばらまいても何の役にも立たない。

ペロシと時を同じくして、ジョン・F・ケリーが大統領特使として、世界を歴訪した。それはペロシと同じくらい注目されても良かったのではないだろうか？

我々は時代を逆行している

気候変動やパンデミックへの対処は、中国やロシアの協力なしにはできない。しかし、ペロシの訪問をきっかけに、中国はこれらの問題についての協議を正式に打ち切った。

バイデンの外交チームは、ロシアと中国を包囲し封じ込めるために、国境沿いに基地を並べ、同盟国を強化することに重点を置いてきた。そんなことをしなくても、ウクライナ戦争はロシアの軍事的弱点を露呈している。

一方、制裁により、世界各国にとって不可欠なロシアの食料、肥料、鉱物へのアクセスが遮断された。それは世界的な不況を助長する可能性がある。

米国と中国は「同業ライバル」

中国は、国防総省が言うように、まさに「同業ライバル」である。しかし、その強さは軍事力ではなく、経済力である。中南米からアフリカ、アジアに至るまで、世界各国にとって主要な貿易相手国である。

ペロシが台湾訪問の後、韓国に立ち寄った際、韓国の大統領は彼女を歓迎しなかった。ユン・ソクヨル大統領は「在宅休暇中」といって会おうとしなかった。3 万人近い米軍を抱える忠実な同盟国からの無視は、中国が韓国の主要な貿易相手国であることの反映であることは間違いないだろう。

米国は、中国と同じように、将来の市場を定義する新技術の開発に注力している。

しかし決して使用されることのない新世代の核兵器などに 1 兆ドル以上を費やすよりも、将来の市場を決定付ける新技術の開発に集中すべきではないか。

「安全保障のジレンマ」

復活した冷戦戦士たちは、米国が中国とロシアの周辺に軍を配備しているのは防衛的なものだと主張する。しかし、スティーブン・ウォルトが『フォーリン・ポリシー』で指摘しているように、これは「安全保障のジレンマ」を無視したものである。

ある国が自国の安全保障を強化するための無害な措置とみなすものを、別の国は脅威とみなすかもしれないのだ。

米国は、ウクライナの NATO 加盟を、ロシアの脅威に対する安全保障の「権利」として主張し続けた。その故に、ロシアは NATO・米国のミサイルがウクライナに配備される危険性に憂慮し、それを脅威とみなしたのである。

プーチンが「権力の座に留まることはできない」というバイデンの発言は、米国の政治家からも反響があった。米国には、これまで世界各地で政権交代を支援してきた歴史がある。それはロシアにとって決して安心できる歴史ではなかった。

台湾の位置づけ変更

これまでワシントンは、台湾が中国の省であることを正式に認めてきている。しかし最近は台湾を重武装化し、太平洋艦隊をさらに増強している。

ペロシは今回の訪問をこう位置づけた。
「アメリカの民主的パートナーである台湾が、自国とその自由を守るために、アメリカは台湾と共に立つ。これはそのための明確な意思表示である」

北京は、これを国家主権に対する攻撃であり、従来の公式見解に対する違反行為であり、台湾の独立運動に拍車をかける挑発行為であると見ている。

アメリカ離れは急速に進行しつつある

冷戦の戦士たちは、世界の大半が我々と同じ立場にあると思い込んでいる。たしかにロシアがウクライナに侵攻した後、NATO の同盟国はロシアに対抗するために結集した。

しかし、『エコノミスト』誌によれば、世界人口の 3 分の 2 はロシアへの制裁を拒否している国々に住んでいる。発展途上国の多くは、米国の主張する民主主義やルールに基づく「秩序」に関して懐疑的である。あるいはさらに悪い印象さえ抱いている。

これらの国のアメリカ離れは急速に進行しつつある。中国によるロシアの石油とガスの購入は、ウクライナ侵攻以来 72%増加している。

中国の「ソフトパワー」の強さが増すに連れ、それに反比例するように米国の「ハードパワー」（軍事力）の「存在価値」が低下している。

キューバ視察中の著者（向かって左）

終わりに

大国が衰退するのは、主に内部の弱さと新しい現実に適応できないことが原因である。
危険なほどに党派間の敵対が激化する時代にあって、超党派による新冷戦の受け入れ反応は、驚くべき対照をなしている。

しかしそれがどうであろうと、古い習慣は新しい課題に対処できない。このままでは、活力ある米国の民主主義を築くことは到底できないだろう。